

令和4年度「違反建築防止週間」について

1 要旨・目的

建築物の安全性の確保と良好な市街地環境の形成を図ることを目的として、全国一律に、10月15日～21日を「違反建築防止週間」と定めている。県及び各特定行政庁は、建築基準法その他関係法令の目的及び内容について広く県民へ周知するとともに、違反建築を未然に防止するための取組を実施する。

2 現状・背景

—

3 概要

(1) 実施主体

県、広島市、呉市、三原市、尾道市、福山市、三次市、東広島市、廿日市市
(建築確認事務等を行っている県及び8特定行政庁(県は、8市以外の市町を管轄))

(2) 実施期間

令和4年10月15日(土)から令和4年10月21日(金)まで

(3) 場所

広島県全域

(4) 実施内容

ア 一斉パトロールの実施

各実施主体が、消防部局等の関係機関の協力を得てパトロール班を編成し、次の工事現場を重点的に巡回パトロールする。

(ア) 建築確認済証^{※1}の交付から1年を経過しても、完了検査^{※2}を受けていないもの

(イ) 工事監理者^{※3}を定めないまま、工事に着手したもの

(ウ) 戸建住宅

※1 建築物の計画が建築基準法等に適合していることを確認した書面のこと

※2 工事完了した建築物が建築基準関係規定に適合していることを検査すること

※3 工事が設計図書のとおり実施されているかを確認する者(建築士)のこと

イ 違反是正指導の実施

これまで法令違反を指摘した建築物について、違反建築防止週間内において、重点的に是正指導を行う。

ウ 建築基準法等の周知

(ア) 実施内容

住宅等を建築する際の法令上の留意点、手続きなど、窓口を設け県民からの相談を受け付ける。

(イ) 相談窓口の設置場所

各建設事務所建築課内、広島市各区役所建築課内、広島市以外の各特定行政庁建築指導主管課内に建築相談窓口を設置する。

エ 広報活動

(ア) 懸垂幕やポスターの掲示

(イ) 広島県ホームページへの掲載

(ウ) 啓発用パンフレットの配布（各実施主体の窓口での配布）

(エ) 各市町及び建築関係団体への周知

あなたの住宅・店舗・事務所等を
安全に建てるための

建築基準法 建築士法

(令和4年度版)



日本建築行政会議
国土交通省

建築物を安全に建てるための

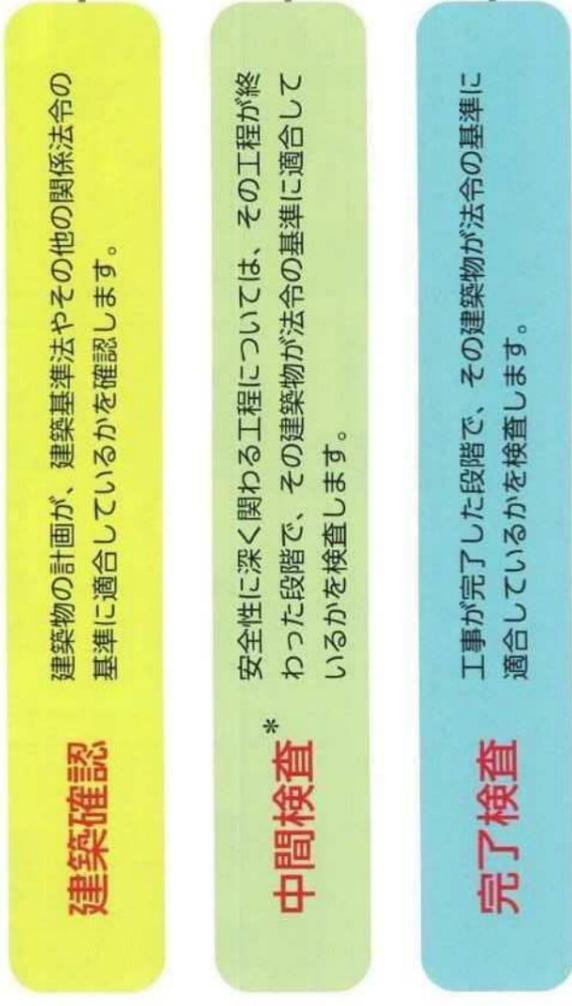
建築基準法・建築士法

建築基準法の役割

● 建築基準法

建築基準法には、国民の生命・健康・財産を守るため、地震や火災などに対する安全性や、建築物の敷地、周囲の環境などに関する必要な基準が定められています。
建築物を建てる場合には、必ず守らなければなりません。

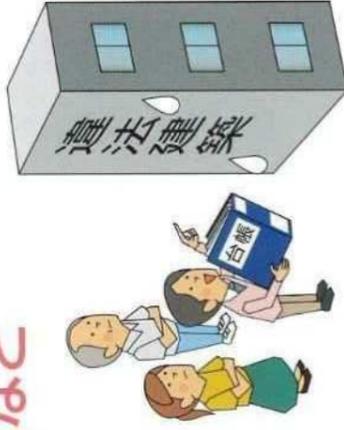
● 建築基準法のチェックは、次の3段階で行われます。



● 情報の公開・違反者への罰則など

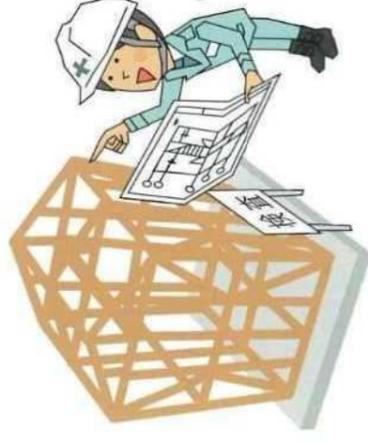
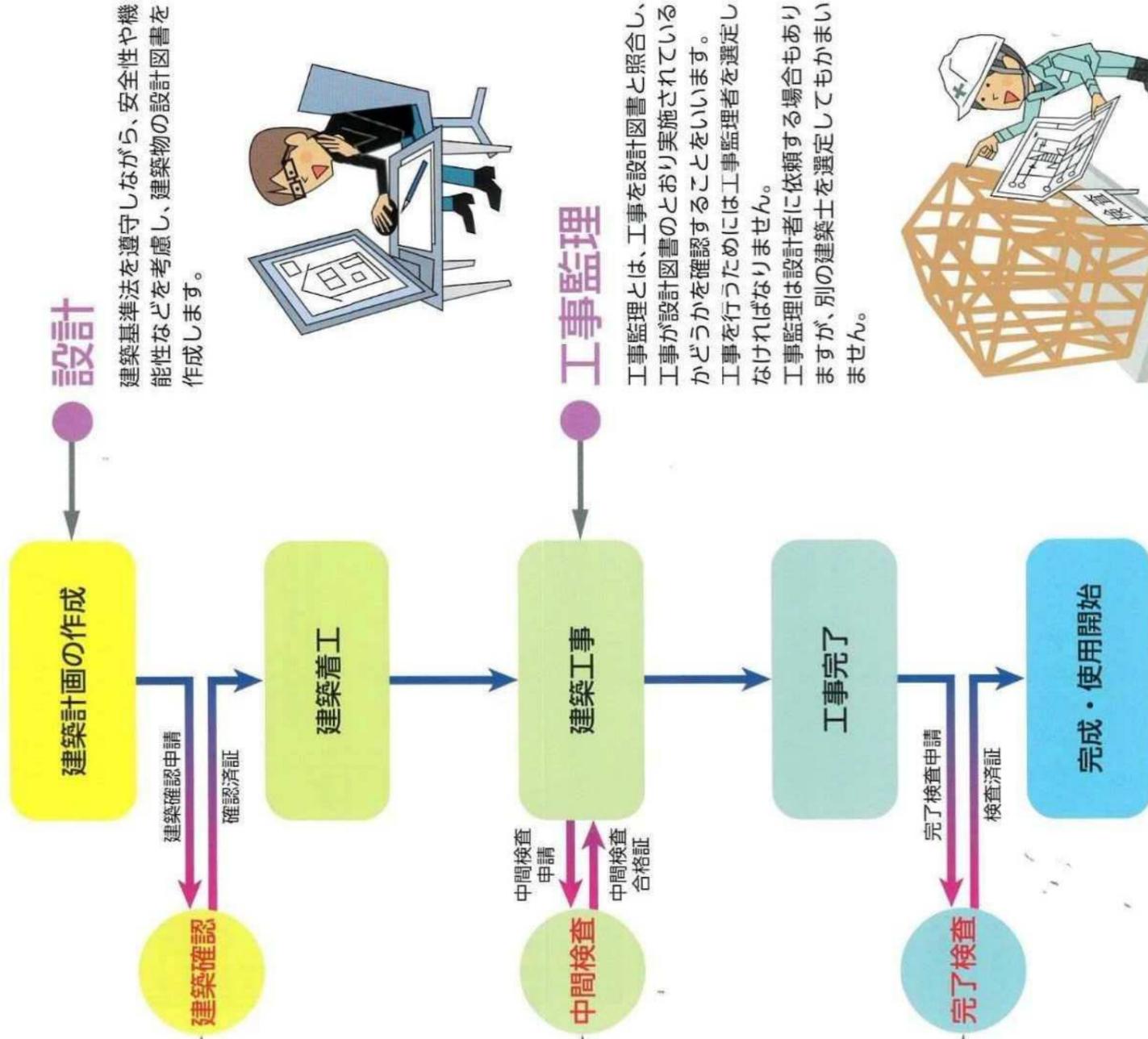
建築された建物の概要や検査の履歴は台帳に記載され、都道府県や建築主事*のいる市区町村で閲覧できるようになっています。
また、違反建築物の建築主などへの罰則の規定が設けられています。

*建築物の計画が建築基準関係規定に適合していることを審査する資格者。



建築工事の流れ

建築士の役割



建築基準法の概要

建築基準法は、国民の生命、健康、財産を守るため、建築物に求められる性能などのうち、建築物やそれによって構成される市街地の安全、衛生等を確保するために必要な基準が定められています。



地震による被害例（熊本地震）

1 建築物の安全・衛生を確保するための基準

建築物の使用者の生命、健康等を守るための次のような基準で、すべての建築物に適用されます。

地震、台風、積雪等に対する

建築物の安全性の基準

火災による延焼、倒壊の防止、階段等の避難施設の設定等に関する

火災時の安全性の基準

居室の採光、換気、給排水設備、衛生設備等の

環境衛生に関する基準

2 市街地の安全・環境を確保するための基準

良好な市街地環境を確保するための次のような基準で、原則として都市計画区域及び準都市計画区域内の建築物に適用されます。

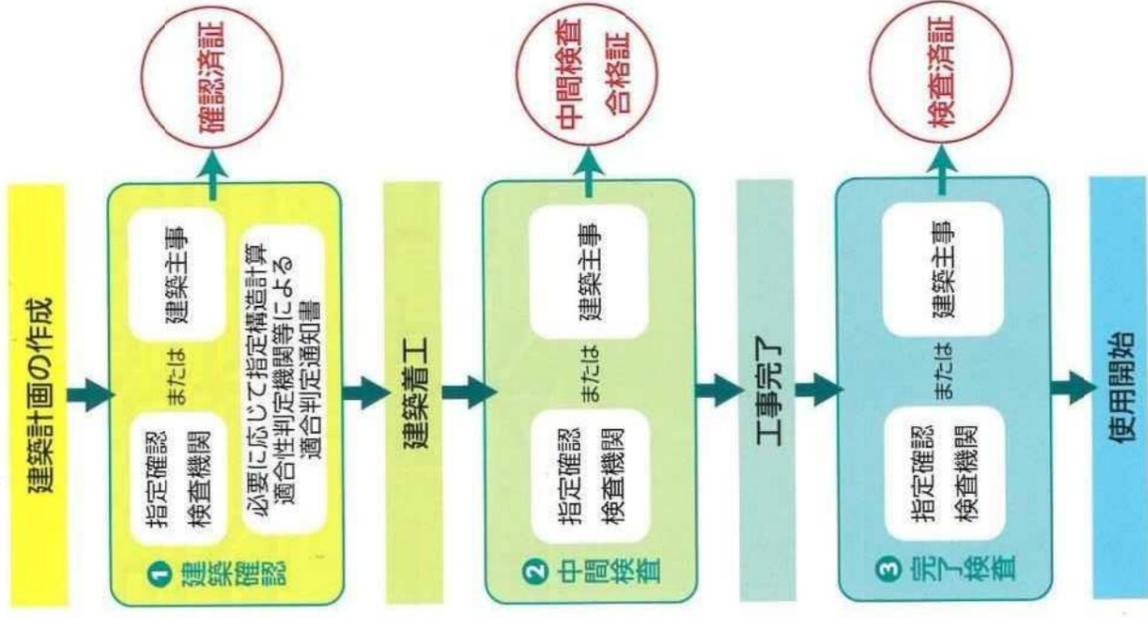
敷地が一定の幅員以上の道路に接することを求める基準

都市計画において定められた用途地域ごとに建築することができる建築物に関する基準

建築物の容積率、建蔽率の制限、高さの制限、日影規制等に関する基準

建築の手続き

建築物の安全性などを確保するために、建築物を建てる際には、行政の建築主事または民間の指定確認検査機関による審査や検査を受け、一定規模以上の建築物は、指定構造計算適合性判定機関等の判定を受けなければならぬこととなっています。



1 建築確認

建築物を建築しようとする人は、都道府県や市区町村の建築主事または指定確認検査機関に確認申請書を提出し、建築基準法等の基準に適合していることの審査を受けなければなりません。一定規模以上の建築物は、構造計算適合性判定の申請も必要となります。

2 中間検査

特定工程*を含む建築物については、特定工程が終了した段階で、建築主事や指定確認検査機関の検査を受けなければなりません。

*特定工程…建築基準法第7条の3第1項で定められており、法定化された特定工程と特定行政庁が指定する特定工程があります。

3 完了検査

建築確認を行わなければならない建築物については、工事が完了した段階で、建築主事や指定確認検査機関の検査を受けなければなりません。

構造計算適合性判定について

高度な構造計算を要する一定規模以上*の建築物に対し、都道府県知事または指定構造計算適合性判定機関による構造計算適合性判定が義務付けられています。これは、より安全・安心な建築物の建築を目指し、建築主事等が行うラシックに、指定構造計算適合性判定機関等によるラシックを加えた制度です。
平成27年6月1日以降は、建築主事が指定構造計算適合性判定機関等に直接申請する制度に改められました。

*一定規模以上…木造で高さ13m超または軒高9m超、鉄骨造で4階以上、鉄筋コンクリート造で高さ20m超の建築物等が対象になります。



●建築物を安全に建てるためのチェックリスト●

設計・工事監理の依頼

契約前にあらかじめ重要事項説明を受けましたか？	一級建築士・二級建築士・木造建築士
設計は建築物に応じた資格を持つ建築士に依頼しましたか？	一級建築士・二級建築士・木造建築士
工事監理は建築物に応じた資格を持つ建築士に依頼しましたか？	一級建築士・二級建築士・木造建築士

図書の作成・確認申請

設計図書の内容の説明はありましたか？
設計の委託を受けた旨の書面を建築士事務所から受け取りましたか？
建築確認の申請は行いましたか？
一定の構造計算が必要な建築物について構造計算適合性判定の申請は行いましたか？
確認済証の交付を受けましたか？

工事監理

工事監理の委託を受けた旨の書面を建築士事務所から受け取りましたか？
工事監理報告書等の提出はありましたか？

検 査

中間検査が必要かどうか確かめましたか？
中間検査の申請は行いましたか？
中間検査合格証の交付を受けましたか？
完了検査の申請は行いましたか？
検査済証の交付を受けましたか？

◎このチェックリストで行っていないことがありましたら、もう一度確かめて必ず実施してください。

あなたの建築物が完成されました。

あなたには、確認済証・中間検査合格証・検査済証が交付されています。

大事に保管してください。

これらは住宅ローンの融資を受ける場合などや、

将来建築物を売買したり、増改築する場合などに大切な書類となります。

お問い合わせ先

相談窓口